

船舶事故調査報告書

令和2年11月25日
運輸安全委員会（海事専門部会）議決

事故種類	乗揚
発生日時	令和2年7月19日 10時30分ごろ
発生場所	沖縄県中城村吉の浦火力発電所東南東方沖 平管根灯台から真方位207° 1.0海里付近 (概位 北緯26° 14.9′ 東経127° 52.6′)
事故の概要	ヨットCara STARは、航行中、浅礁に乗り揚げた。
事故調査の経過	令和2年7月20日、主管調査官（那覇事務所）を指名 原因関係者から意見聴取実施済
事実情報	
船種船名、総トン数	ヨット Cara STAR、5.1トン
船舶番号、船舶所有者等	235-54659 沖縄、個人所有
乗組員等に関する情報	船長、一級小型・特殊・特定
負傷者	なし
損傷	キールに擦過傷
気象・海象	気象：天気 晴れ、風向 南、風力 4、視界 良好 海象：海上 平穏、潮汐 下げ潮の末期
事故の経過	<p>本船は、船長が1人で乗り組み、同乗者3人を乗せ、周遊の目的でマリーナを出港し、船長が、目視で海面の状況を見ながら約5ノットの対地速力で航行していたところ、船内の水深計を見ていた同乗者1人から水深が浅くなっている旨を聞いたものの、同じ速力のまま航行し、浅礁に乗り揚げた。</p> <p>船長は、沖縄県沖縄島東岸を航行するのが2度目で、前回操船したのが約1年前で問題なく航行できていたので、本事故当日も問題なく航行できると思い、乗船前、航行しようとする海域の浅礁の存在等の情報を入手していなかった。</p> <p>本船は、船体の深さが約1.81mであった。</p>
分析	本船は、航行中、船長が、沖縄島東岸を航行した経験から水路情報を得なくても問題なく航行できると思い、目視で海面の状況を見ながら航行したことから、浅礁の存在に気付かず、浅礁に乗り揚げたものと推定される。
原因	本事故は、本船が航行中、船長が、沖縄島東岸を航行した経験から水路情報を得なくても問題なく航行できると思い、目視で海面の状況を見ながら航行したため、浅礁の存在に気付かず、浅礁に乗り揚げたものと推定される。
再発防止策	<p>今後の同種事故等の再発防止に役立つ事項として、次のことが考えられる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・浅礁が存在する海域を航行する場合、目視で海面の状況を確認す

るほか、GPSプロッターや水深計を活用して船位及び水深の確認を行うこと。

- ・船長は、乗船前、水路情報を入手し、浅礁の存在など危険な海域を把握しておくこと。